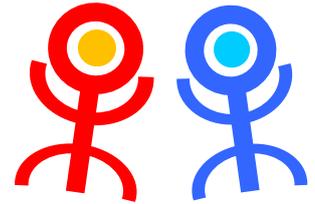


たましろの郷より

7月号

たましろの様子や今後の予定をお伝えするページです。



☆施設からの報告

◆生活介護の現場から～“生活介護”ってなに？

たましろの郷は、4月から障害者自立支援法による障害者支援施設に変わりました。3月まで身体障害者更生援護施設(入所授産・通所授産)として、生活と作業を一体的に支援してきました。新しい施設体系では日中活動と住まいの場を分け、障害のある人が必要に応じて昼と夜のサービスを組み合わせるようになりました。たましろの郷では、昼のサービスとして“生活介護”、夜のサービスとして“施設入所支援”“短期入所”の3事業を行う事になりました。

日中活動が就労としての“授産施設”から“生活介護”に変わり、名前だけで考えると「食事などの介護が必要な利用者を支援する施設になった」感じがします。利用者の中にも、「私は生活、大丈夫。介護は必要ありません。お仕事、やります」と訴える方もいます。それでも生活介護に移行した理由は、就労支援の事業よりも、利用者の人数に対して職員をたくさん配置できるようにするためです。ろう重複障害のある利用者は、一人ひとりの障害特性やコミュニケーションに合わせた支援を必要とし、そのためにより多くの職員が必要になる為“生活介護”になりました。

生産活動も提供できるので、これまで通り利用者の仕事として清掃や自主製品の生産販売にも取り組んでいきます。また、先月お伝えしたように、レクリエーションも重視し、運動、健康、創作活動を中心に取り組んでいます。5月には利用者全員でバーベキューレクも行いました。詳しくは下の記事をご覧ください。

日中活動の場

生活介護 50名

住まいの場



プラス

施設入所支援 30名

通所者 20名

◆見学者からのおたより

たましろの郷は、多くの方に見学していただいています。どんな施設なのか知りたいと個人で来てくださったたり、手話サークルなどの団体で、大きなバスで来て下さることもあります。作業の様子を見てもらう際は、なかまが張り切って自分の取り組みを説明したり、一緒にお昼ご飯を食べながら交流できることもあります。たましろを知ってもらえるだけでなく、なかまにとっても、見学者との交流は社会参加への大きな刺激になっていると感じています。今回は、最近来て下さった見学者からの感想のお便りを紹介します。

「施設長の意見をお聞きし、議会で私の賛否で良かったのだなと改めて現場のお声を重く受け止めました。3障害を一緒に、との議会で条例改正案にたった一人で反対しました。受け入れの専門家もいない施設で、民宅のそばに施設があるから、誰でもそこへ行けるように改善と役所は説明したのですが、そんなに簡単なことではないと安易な改正に賛成できませんでした。

結局、精神障害の方が知的の施設に申し込んでも施設は拒否という実態もその後が発生しました」

「施設の職員の方の志の高さに大変感銘を受けました。また施設長のお話には、圧倒されました。大変な現実があること、現場を知らないといけないうつづくと思いました」

「施設内を愛情こめて丁寧にご説明ご案内いただき、ありがとうございました。いい学びをさせていただきました。感謝申し上げます。皆さまがすこやかに過ごされますようお祈り申し上げます」

「施設長のお話に民生委員として改めて身が引きしめる思いでございました。民意委員信条の中に“常に地域社会の実情を把握することに努めます”とあります。心してがんばらねばと思います」

見学は随時受け付けております。まだ来たことのない方、もう一度来てみたい方、どなたでも、施設までご連絡ください。

☆全体レク バーベキュー

今年度より、新しい取り組みとして、隔月に1回全利用者が集まりレクリエーションできる機会を設けました。

1回目は5月26日(土)に、たましろの中庭で庭遊びとバーベキューを行いました。

快晴の下、利用者の希望に応じて活動し、積極的にテントや調理に取り組む利用者、のんびりボールやボーリング、フラフープで遊ぶ利用者と、思いおもいに過ごしました。

全員が集まっていることもあり、普段の作業やレクリエーションとはちょっと違う一体感のような雰囲気午前を終え、待ちに待ったバーベキューになりました。

焼きそばを配布すると、すぐに食べ終わった利用者から「肉はまだ？もっとちょうだい」と声がかかり、鉄板の前には列が絶えません。おいしく、たくさん食べて欲しいと準備してあったおかげで、調理が半分を過ぎる頃には「お腹いっぱい！」とテントでくつろぎながら、笑顔のうちに終わりました。

楽しかった当日の様子はこちら！ ↓



中庭遊びの様子。フラフープやボールで盛り上がりました。



きゅうりの浅漬けも作りました。ざくざくと大き目に切って、浅漬けの素につけます。ちょっと入れすぎで、しょっぱくなってしまいました！



暑かったので、テントの下に鉄板を設置して焼きました。たくさんのお肉と野菜。すぐに行列です。



ウインナーは、なかまも焼き色をみながらひっくり返します。上手です！



おしゃべりしながら、たくさんおいしく食べました。

☆相田みつを展に行ってきました

善意銀行より相田みつを特別展覧会の招待チケットを寄付していただき、6月8日(金)、なかま11名と職員4名、ボランティアさん5名で行ってきました。

会場の国際フォーラムまではマイクロバスで片道2時間。午前中に出発し、昼食はバスの中でお弁当です。何を買うかは自分で選んだのですが、お弁当ではなく、うどんやサンドイッチ、ハンバーガーを買っていたなかまもいました。

桜田門の皇居付近まで来たとき、あるなかまが突然「手を振ってる人・あそこ！」と話を始めました。皇居で手を振っている人とは…？そう、天皇陛下の事でした！テレビでよく見る光景が浮かんだのですね、実際にその場にいることが嬉しかったのだと思います。

バスを降りた周辺は、高層ビルと高級そうなお店の連なりです。街ゆく人も、たましろで見かける人とは雰囲気は違ってきます。周りを見回しながら会場へ近づいて行きました。

肝心の展覧会ですが、なかまに感想を聞くと、なんと「つまらない」の答えでした。あらら…と思いましたが、字や文章での展示だったので、少しわかりにくかったのかもしれませんが。

展覧会そのものよりも、バスに乗って遠くまで出かけたこと、いつもと違う光景を見たこと、外で食事をしたことなどが、新鮮だったようです。楽しみ方は人それぞれ。なかまが外出自体を楽しかったと思えることと、安全に帰って来られたことが、何よりです。

チケットを寄付して下さった方、ご協力頂いたボランティアさん、貴重な一日を過ごす機会を設けて下さり、本当にありがとうございました。

☆6月4日(月)突然の停電

6月4日(月)17時20分頃、1日の作業も終わり、女性が入浴を終え、ホッと一息のこの時間帯、事件は起こりました。

施設内の全ての電気が突然消え、非常灯が激しく点滅。施設内に緊張が走りました。「地震?」「雷?」と職員に質問を投げかけるなかま、光る非常灯を気にするなかま、我関せず?いつものように過ごすなかまと反応はそれぞれです。水道も出なくなり、始めようとしていた男性の入浴はひとまず中止です。5分後、なかまは全員食堂に集合。「近くの地域で電線の故障があり、停電、断水しています。19時20分頃に直ります」と伝え、皆落ち着いて過ごしていました。「電車は止まっているのかな」「家は大丈夫かな」と他の地域を心配するなかまがいたのは驚きでした。

停電が起こった時間はまだ外も明るかったのですが、だんだん陽は落ちてくるし、非常灯も時間が経つと弱くなってしまいます。暗闇の中で懐中電灯を照らしながらの夕食は、やはり心細いものでした。

18時45分頃、たましろにやっと明かりが戻ってきました。「わー」と歓声が上が、楽しい夕食のひと時となりました。男性は無事に入浴へ。

去年の計画停電という難題をクリアしたということもあり、今回の停電では大きな混乱は見られませんでした。しかし、停電や断水は本当に突然に起こるということを改めて実感しました。また、普段の生活ができるということがいかにありがたいかを思い知るとともに、なかまの成長が感じられた夜になりました。

☆6月の恒例 どくだみ採取

現在たましろの郷でも発送を行っているどくだみローションの原料となる「どくだみ」を、採取してきました。

どくだみの葉を採り、きれいに洗い、乾燥させた葉を細かく切り、煮詰め、薬剤師の指導の元グリセリンなどの薬品と調合し、ラッピングをして製品となります。全国に発送もしています。

たましろのなかまも、葉の採取や洗い、葉を切る、ラッピングと発送などを行っています。

どくだみの葉が採れる季節は限りがあるため、1年分の製品を作れるくらいのたくさんの葉を、6月中に採取するのが毎年恒例の作業になっています。

6月4日、11日、18日の3回、なかまと親と職員、ボランティアさんとで採りに行きました。

虫よけ対策を万全に、どくだみの中に座り込み、大きくて太いものを根っこからどンドン抜いていきます。なかまには「膝の高さくらいのをね」と伝え、と分かりやすかったです。

がんばった甲斐あって、今年もたくさん採れました。これから年間を通して、なかまが葉を切ったりラッピングをしたりしていきます。



↑ 3m幅のビニールシートに、こんなにたくさん採れました。これは4日に採れたものなので、合計するとこの3倍の量です。洗って乾かすと茶色くなり、まさにどくだみローション色になります。

☆佐渡のユリが咲きました

去年の施設全体旅行で佐渡に行きました。その時にユリの球根を買い、なかまと一緒に育てていました。

ついに開花！大きな花びらが元気に開いています。初めに咲いたのはオレンジ色の、ちょっと強烈な色でしたが、その後白、ピンク、黄色などたくさん咲いてきました。色とりどりできれいです。まだまだたくさんのつぼみがあるので、これからも楽しみです。



☆救命訓練

6月23日(土)職員対象の救命訓練を行いました。夜勤をやる職員を中心に、12名が参加しました。

東京消防庁から講師を招き、人形を使った実習が主な内容です。これまでも人形を使用しての訓練はしてきましたが、やはり毎回緊張し身が引きしまる思いです。

まずは、胸骨圧迫(心臓マッサージ)の実習。
どの位置をどのように抑え、どのくらいの強さで何回のリズムでやれば良いのか？実際やってみないとわからないものです。
4体の人形を使用し、職員が4名ずつやってみます。1人ひとりを見ながら、「もう少し手のひらを上向きに」「女性が行う場合は体重をかけてしまった方がやりやすい」などアドバイスをいただきました。

次に、人工呼吸。

人形の口から、息を吹き込んで、胸骨圧迫と組み合わせて行います。ここでも「相手の口を覆うようにすると確実に空気が入る」「気道確保を忘れないように」などの大事なポイントがあることが分かりました。

それから、AED(自動体外式除細動器)の使い方。

たましろにあるのと同じAEDを使ってみることができました。機械を開けて、音声や字幕の案内通りに操作します。難しくはないけれど、これもパットの貼り方や、電流を流す際には対象者から離れなければならないなど注意点がありました。

最後に、以上の動きを組み合わせる全部通してやってみました。周りに協力者がいたことを想定して、胸骨圧迫の交替の仕方、AEDの音声案内が対象者の回復によって変わることなど、初めて知った事もありました。

なかまに対して救命措置が必要な場合、日中なら職員は多めにいますが、夜間は夜勤者2人だけの可能性もあります。そのような場合に、1人で全て対処するのではなく、いかに職員同士協力して行えるかというのが、本当に大切なポイントとなると感じました。もしかしたら、救命の技術よりも連携の取り方の方が重要になるかもしれません。

その他、救急車が到着したからと言って胸骨圧迫をやめてはいけないこと、命が助かったり後遺症が少なくて済む為には、救命のチャンスを逃してはいけないこと、蘇生の可能性はほんのわずかな時間でどんどん減ってしまうことなども学びました。

また、「救命に必要なのは80%が勇気」という言葉が印象的でした。

このような実習は毎年行っているとはいえ、時が経てば忘れてしまいがちです。事故が起こらず、施設内で救命措置を行わずに済むことがとても幸せなことです。やはりなかまの命を預かっている以上、いざという時の為に、きちんと身に付けておきたいと改めて実感しました。



☆その他 最近のたましろ

- ◆6月2日(土)にたましろの郷報告集会があり、施設からも職員が参加してきました。
- ◆食堂の給茶機が新しくなりました！
美味しい煎茶が飲めます。



☆ボランティア募集

たましろの郷では、日中活動に協力して下さるボランティアさんを、随時募集しています。手話など、特別な技術はなくても参加できます。作業や余暇など、一緒にいて頂くだけでも大歓迎です。

○日中活動ボランティア

たましろでは、委託清掃、製菓(クッキー)の他に、軽作業、レクリエーション等の活動に取り組んでいます。手話や特別な技術よりも、一緒に過ごして楽しんでもらえるボランティアさんを、いつでも受け入れています。

施設内の主な活動

	月	火	水	木	金
午前	軽作業	軽作業	軽作業	軽作業	軽作業
午後	軽作業 レク	軽作業 レク	軽作業 レク	軽作業 レク	軽作業 レク

※毎日午後はレクを行っています。

レクの内容は、スポーツ、ドライブ、調理、ビデオ鑑賞、生活支援などです。

※平日は、送迎バスを利用できます。事前にお問い合わせください。

○休日余暇活動ボランティア

施設のなかま、職員と集団で一緒に過ごします。

職員と一緒におりますので、ご都合に合わせて気軽に遊びに来て下さい。余暇の活動内容は、ボランティア情報をご覧ください。

☆7月ボランティア情報はこちら

こちらから7月のボランティア情報をご覧ください。

※ボランティア便り7月号.pdfをリンク。